



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 7. 12

3, 4年生用 No.28

先輩の頑張りが本校への求人に



先日ある企業の社長さんがお見えになり、今年も学校指定で本校に1名求人を出したいと言っていただきました。この会社は2年前より毎年本校の生徒のみを採用いただいています。最初の年は本校から2名採用いただきました。その**先輩が一生懸命頑張っているということで、本校の生徒にかなり期待をいただいています。**

2年前に入った生徒は工業と普通科が各1名ずつでした。当初は普通科の生徒の方が取り組みがやや遅く心配に思ったようですが、確実な仕事をしてくれ、現在では二人とも大変戦力になり頑張ってくれているとのことでした。社長さんいわく、**本校の生徒は「素直でまじめであってよい」とのことです。**「注意しても素直に自分を振り返り、次のステップに結びつけている」とのこと。

企業の方からこうやって本校に期待をし、毎年本校に求人が頂けるといのは大変有り難いことです。そうした企業には期待を裏切らないような生徒を送っていきたくと思っています。

こうして**先輩達が頑張ってくれていると後輩にとっても本当に有り難いこと**です。特に今年のような就職の厳しい時にこうしたありがたみが一層身にしみます。

反対にすぐに辞めてしまったり、「いっこうに使い物にならない、来年から箕高からは採用しない」といわれる企業もたまにあり、そんな時は大変つらい思いをします。

先輩達の入社後の姿勢が後輩達にも影響している現実を是非知っていて欲しいものです。



若者よ小さくまとまることなかれ

世の中はグローバル化が急速に進み、日本の企業の海外進出も一層激しくなっています。**こんな時代だからこそ日本人はもっと世界に目を向け、グローバルに物事を考えなくては世界から取り残されてしまいます。**しかし、最近の日本人の傾向は、**内向き指向が強まり小さな世界に留まりがち**です。

今のようにインターネットもテレビもない江戸時代末期に長野県出身の佐久間象山は、この長野県の地に生まれながら、いち早く世界に目を向け広い見識を持って日本の行く末を考えていました。それに引き替え皆さんはどうでしょうか。いつまでも自分の周りの小さな世界に関心が留まっていますか。ややもすれば手中のゲーム機や、携帯電話の世界に留まり、広く世界や国の行く末を考えているなどという人がどれだけいるのでしょうか。

就職に際してもいつまでも親元から離れられず、地元志向に留まっていますか。かつてのように兄弟が少なく、ゆくゆくは親の面倒を見なくてはならないと考えているのかもしれませんが。しかしせめて**若い時は親元を離れて広く日本や、世界に活躍の場を広げることだって出来るはず**です。地元の企業に入っても将来海外勤務になることだってあるかもしれません。今年のように管内の求人が少なくても県外の求人はかなり来ています。比較的自由がきく人は県外への就職を考えるというのも一つの選択肢のように思います。若い人にはもっと人間の幅を広げて欲しいものです。

若い人達がもっと世界に目を向けていかないと、日本はやがて世界からも忘れられた東洋の外れの小さな島国だけの存在になってしまうでしょう。

